竹田城下町ノート

明日への情感まちづくり

東京大学 景観研究室

竹田の情感まちづくりにむけて

情感が感じられる風景をどれくらい持っているか、それがそのまちの豊かさをあらわしていると、私たちは考えます。ふとした隙間におかれた植木鉢や、打ち水をする女性、まちかどであいさつを交わすこどもたち、水路の水音。そうしたささいな、しかし情感ただよう日常のものやことが、竹田の城下町には脈々と残っています。

私たちは、そうした情感を守り、育むことが竹田の城下町のまちづくりに大切だと考えます。たとえば、これからつくろうとしている図書館。私たちは、それがたんなる公共の建物施設ではなく、竹田のみなさんが情感を共有できる場として、城下町のなかにしっくりととけこんでいる、そういう図書館であってほしいと願っています。

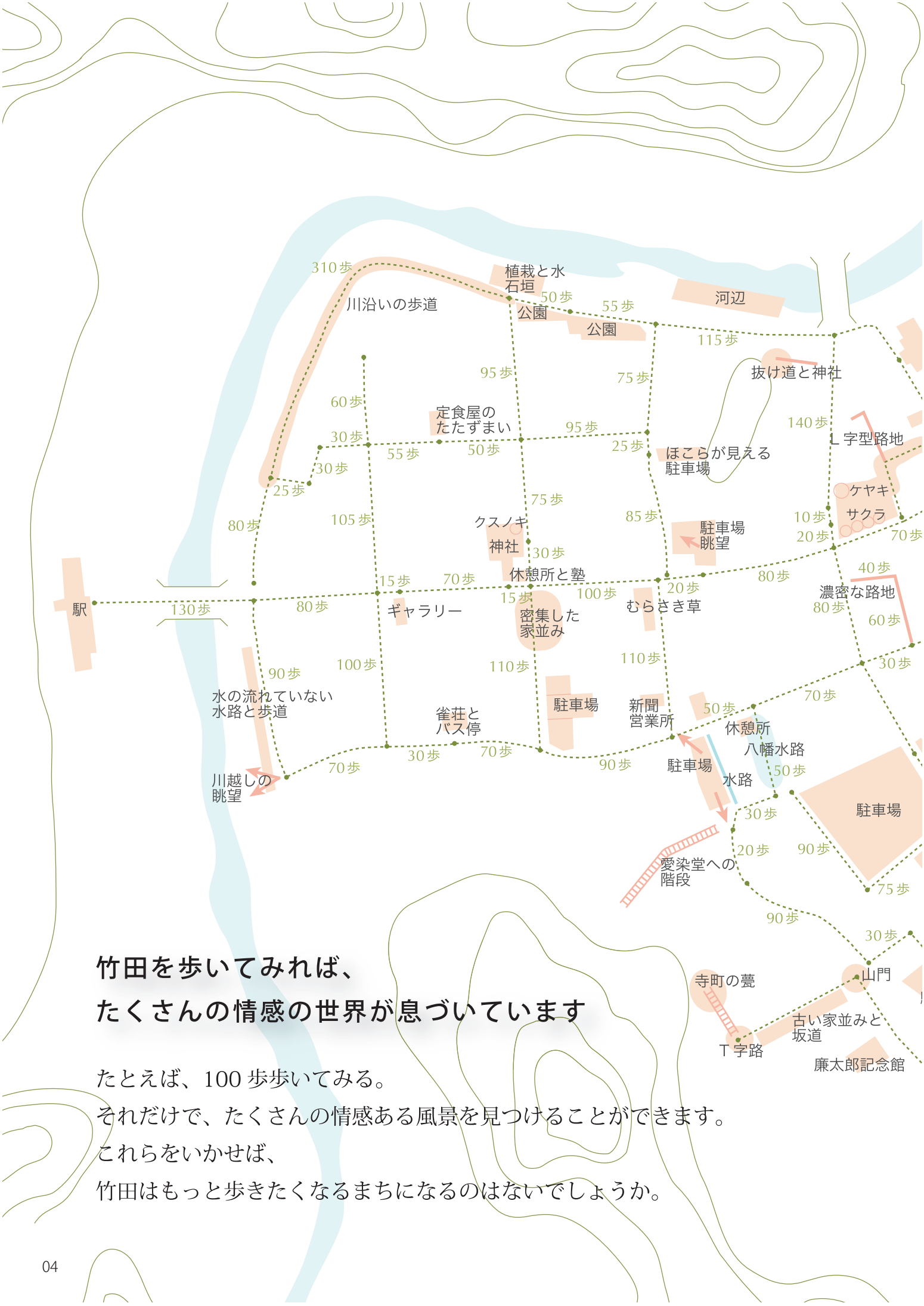
この竹田城下町ノートには、「情感を大切にしよう」という私たちのメッセージが詰まっています。これから竹田に、もっとたくさんの情感を見つけて、また生み出してゆきたい。これをお読みになる皆さんと、竹田の明日への情感まちづくりにむけて、最初の一歩をともに踏み出してゆきたいと思っています。

東京大学 景観研究室

「總町繪圖面」
明治 2 年 (1869)

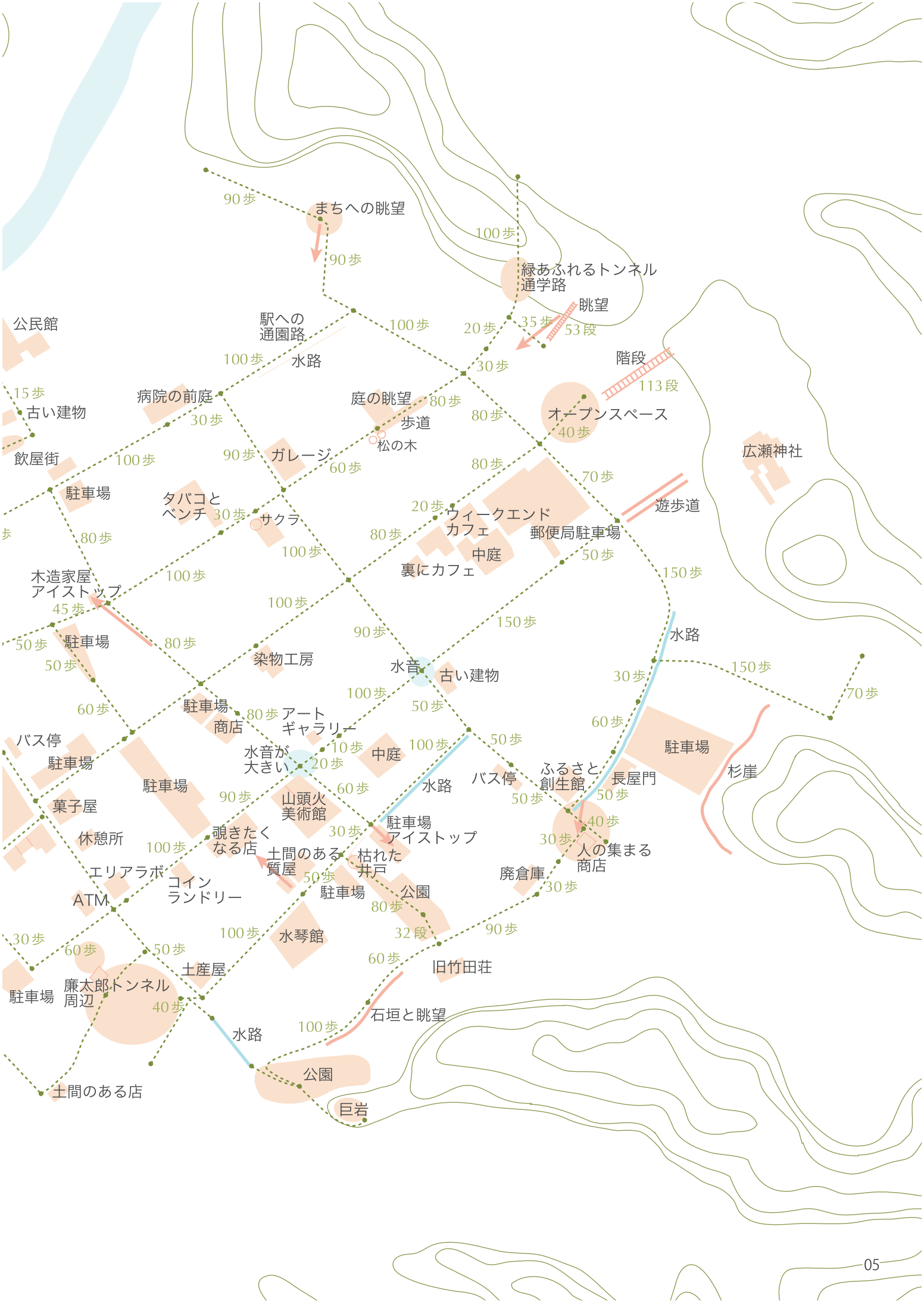
城下町の構造は、歩くことに最適化されています

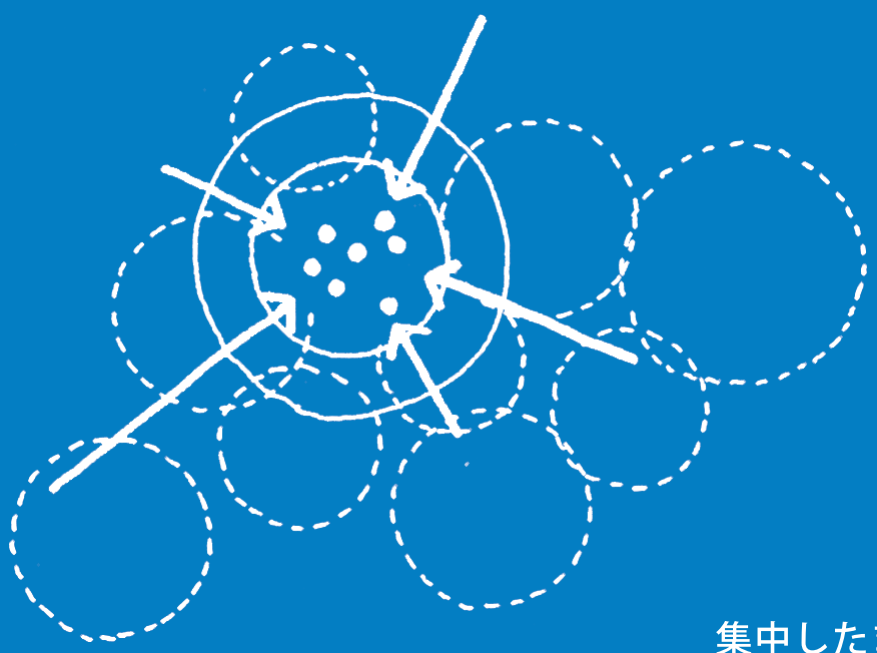
城下町が生まれた頃は、自動車も汽車もありませんでした。
まちの構造やスケールは、歩くという行為に適したものとなっています。
きっと歩くことによって、城下町という暮らしの器の可能性を
ひきだしていけるはずです。



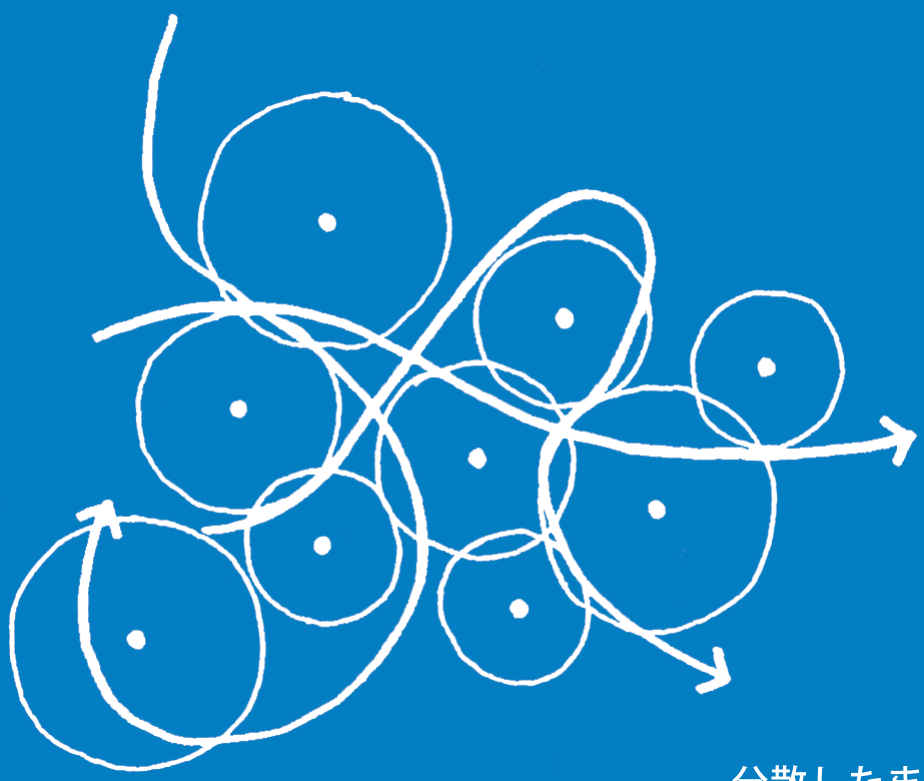
竹田を歩いてみれば、
たくさんの情感の世界が息づいています

たとえば、100歩歩いてみる。
それだけで、たくさんの情感ある風景を見つけることができます。
これらをいかせば、
竹田はもっと歩きたくなるまちになるのはないでしょうか。


まちへの眺望
90歩
100歩
90歩
緑あふれるトンネル
通学路
眺望
35歩
53段
公民館
駅への
通園路
100歩
20歩
100歩
水路
30歩
階段
113段
15歩
病院の前庭
庭の眺望
80歩
古い建物
30歩
歩道
80歩
オープンスペース
40歩
松の木
飲屋街
100歩
90歩
ガレージ
60歩
80歩
70歩
広瀬神社
駐車場
タバコと
ベンチ
30歩
サクラ
20歩
ウィークエンド
カフェ
郵便局駐車場
遊歩道
80歩
80歩
100歩
中庭
50歩
裏にカフェ
150歩
木造家屋
アイストップ
100歩
45歩
100歩
150歩
90歩
水路
50歩
駐車場
80歩
50歩
染物工房
水音
古い建物
30歩
150歩
70歩
100歩
50歩
60歩
駐車場
80歩
アート
ギャラリー
商店
60歩
バス停
10歩
100歩
50歩
駐車場
水音が
大きい
20歩
中庭
駐車場
ふるさと
創生館
長屋門
杉崖
駐車場
バス停
水路
90歩
60歩
50歩
50歩
山頭火
美術館
菓子屋
40歩
駐車場
アイストップ
30歩
休憩所
30歩
覗きたく
なる店
100歩
人の集まる
商店
土間のある
質屋
枯れた
井戸
エリアラボ
廃倉庫
コイン
ランドリー
50歩
駐車場
公園
30歩
ATM
80歩
100歩
水琴館
32段
90歩
30歩
60歩
50歩
60歩
土産屋
旧竹田荘
駐車場
廉太郎トンネル
周辺
40歩
石垣と眺望
100歩
水路
公園
土間のある店
巨岩



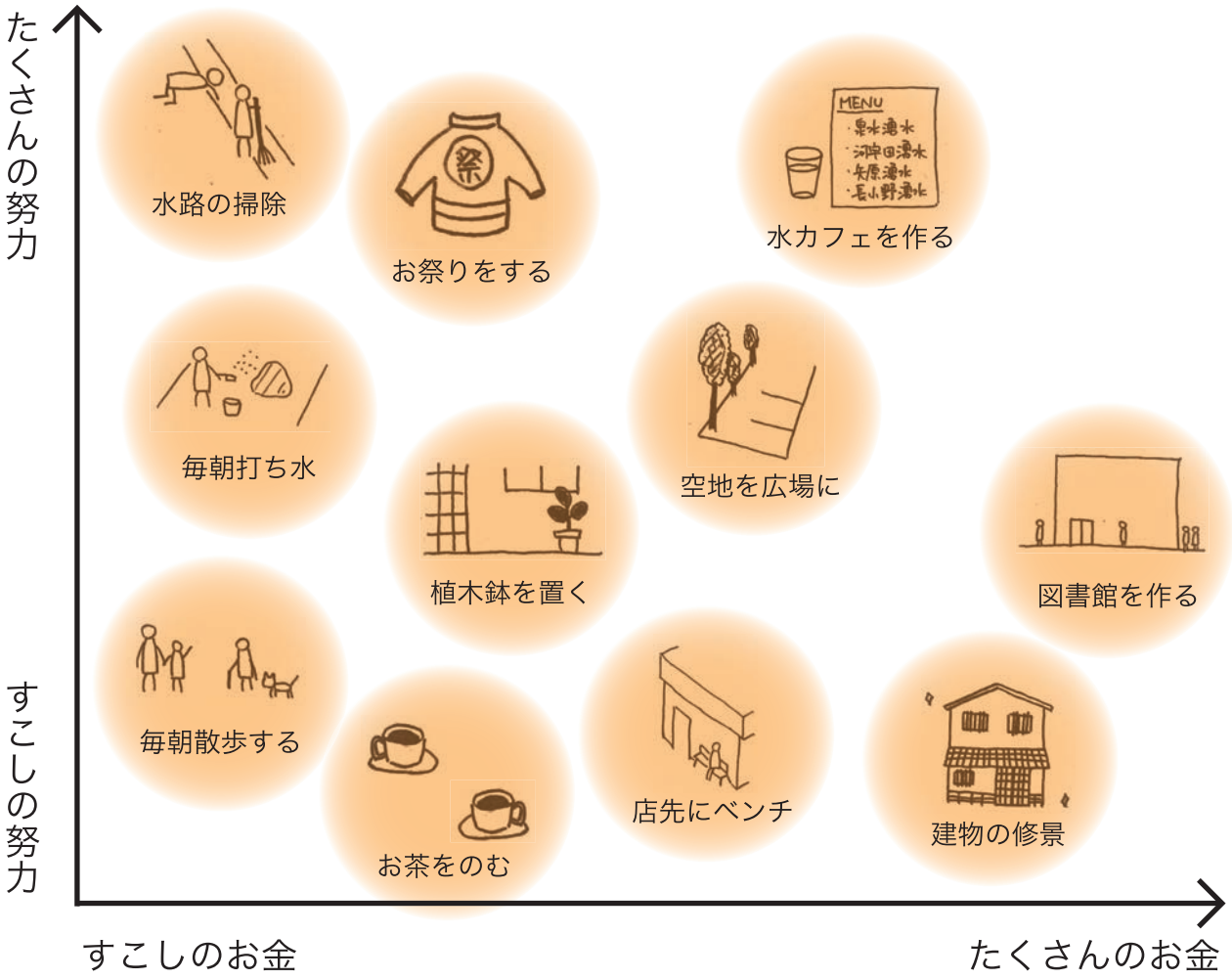
集中したまちの構造



分散したまちの構造

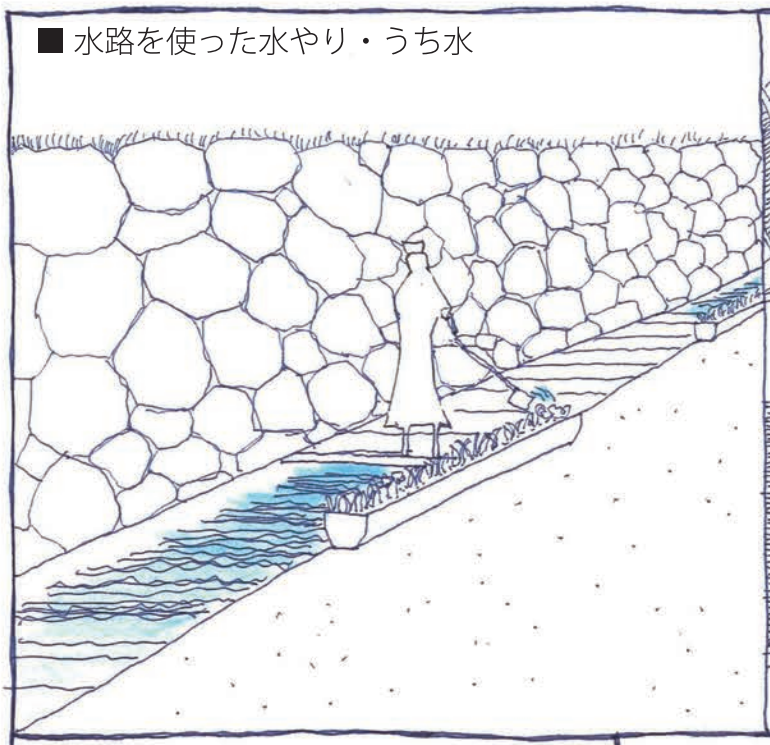
竹田にのぞましいまちの構造

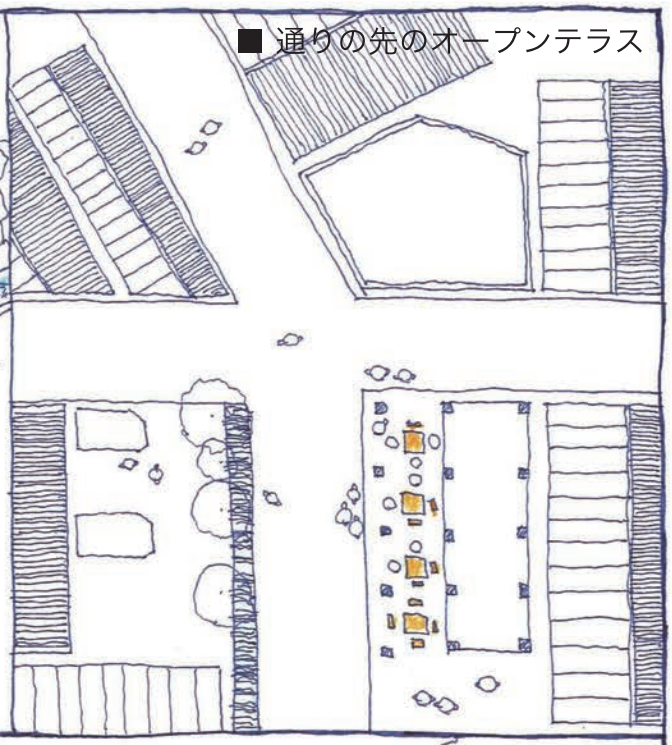
それは、人が歩くことをいざなうような、
魅力や居場所が分散したまちの構造です。

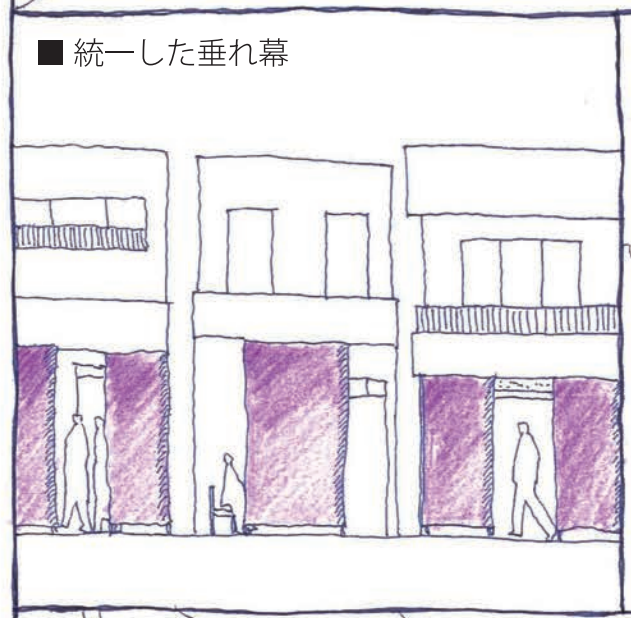

たくさんの努力
すこしの努力
すこしのお金
たくさんのお金
水路の掃除
お祭りをする
MENU
水カフェを作る
毎朝打ち水
空地を広場に
植木鉢を置く
図書館を作る
毎朝散歩する
お茶をのむ
店先にベンチ
建物の修景

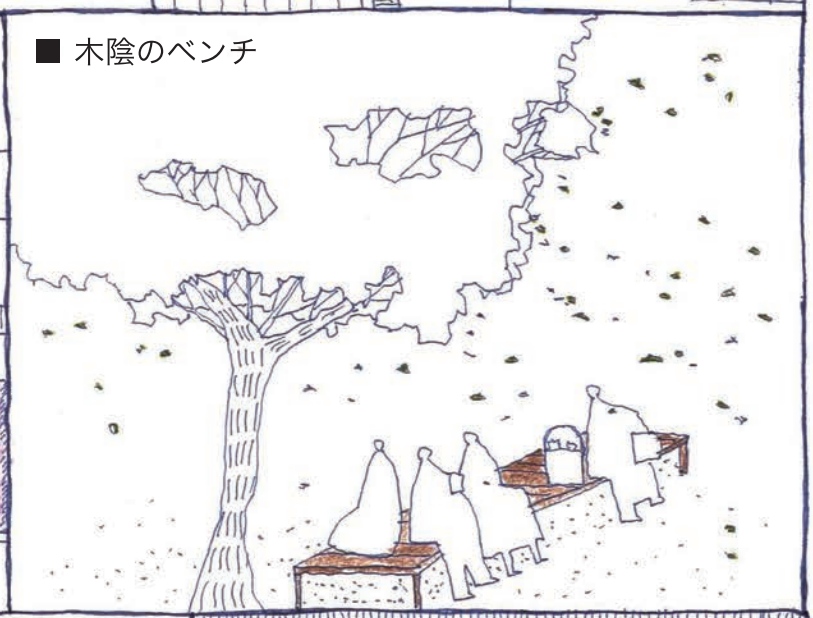
ひとりでできること、みんなでやること

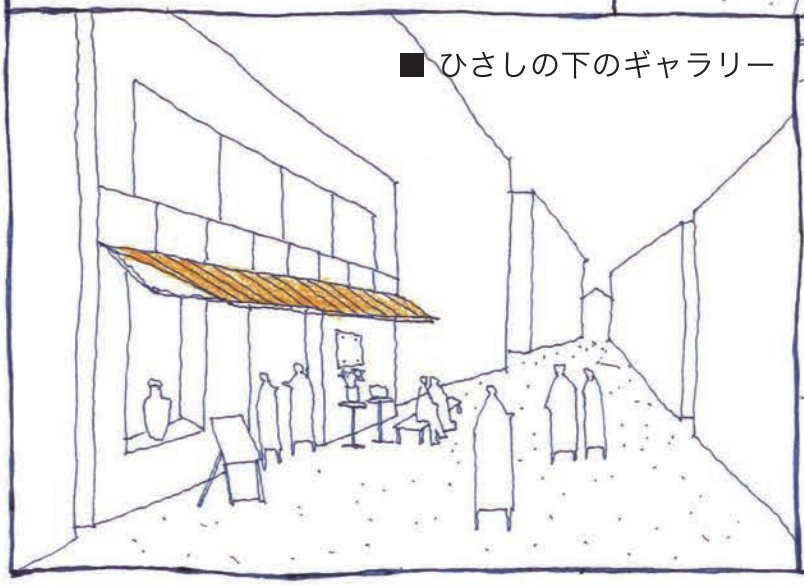
日常的なさまざまなこと
日頃あたりまえだと思っていること
それぞれに大切な居場所
みんなで大きな場所をつくること
それらはすべて竹田の情感を養う風景になってゆきます

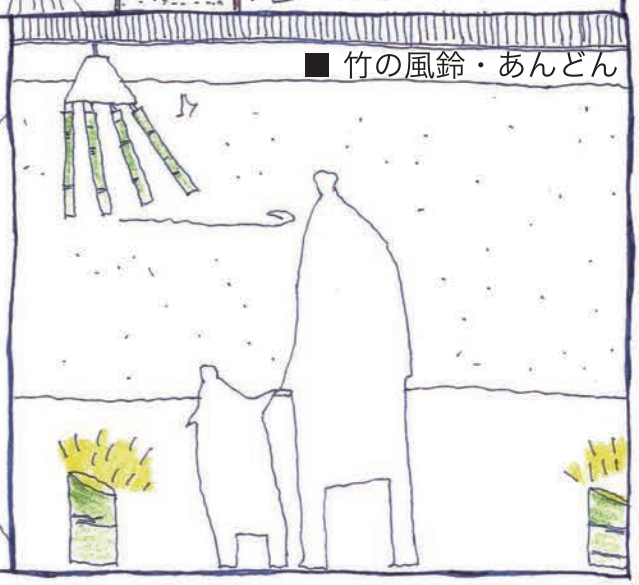

■ 水路を使った水やり・うち水

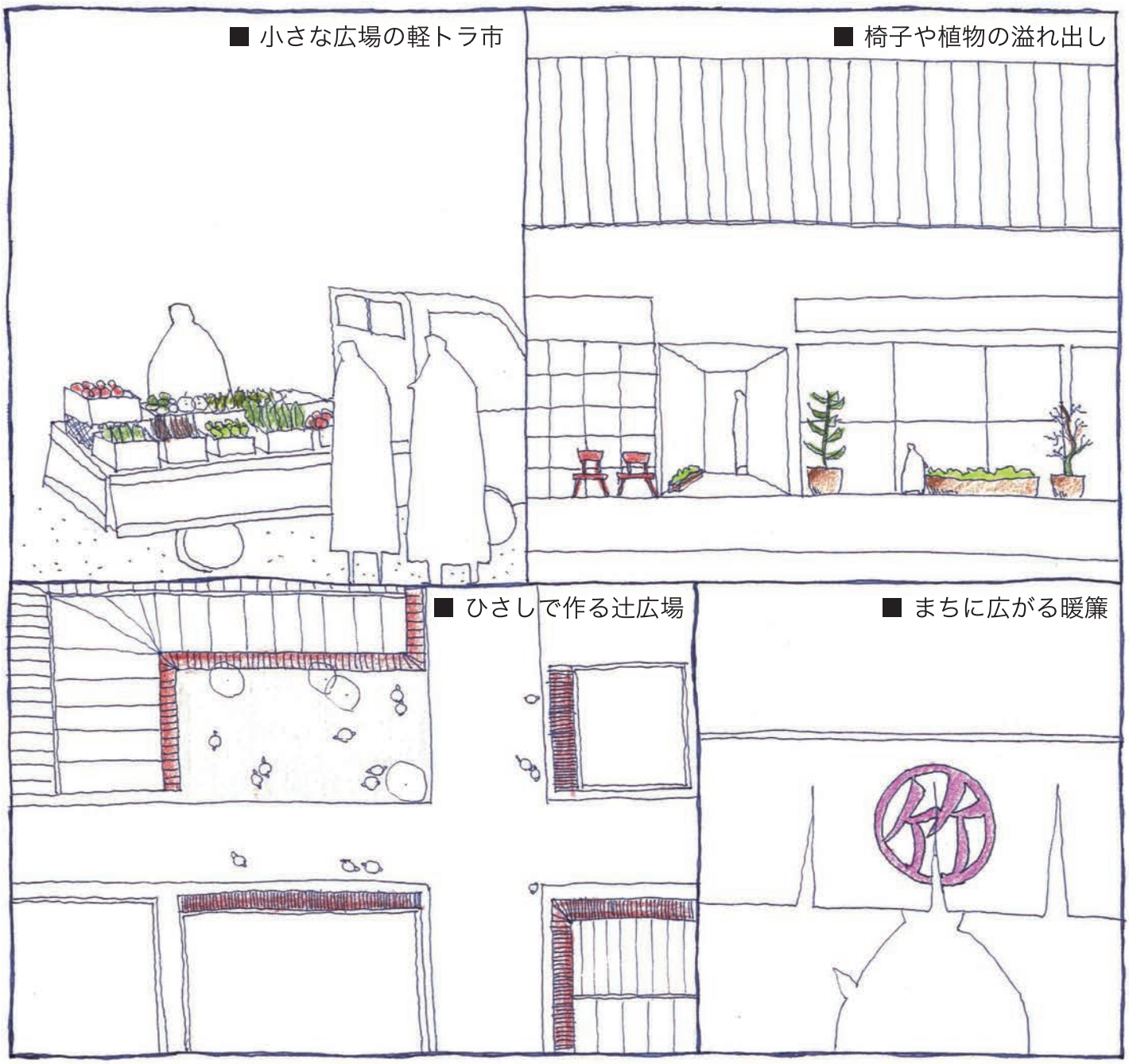

■ 通りの先のオープンテラス


■ 統一した垂れ幕


■ 木陰のベンチ

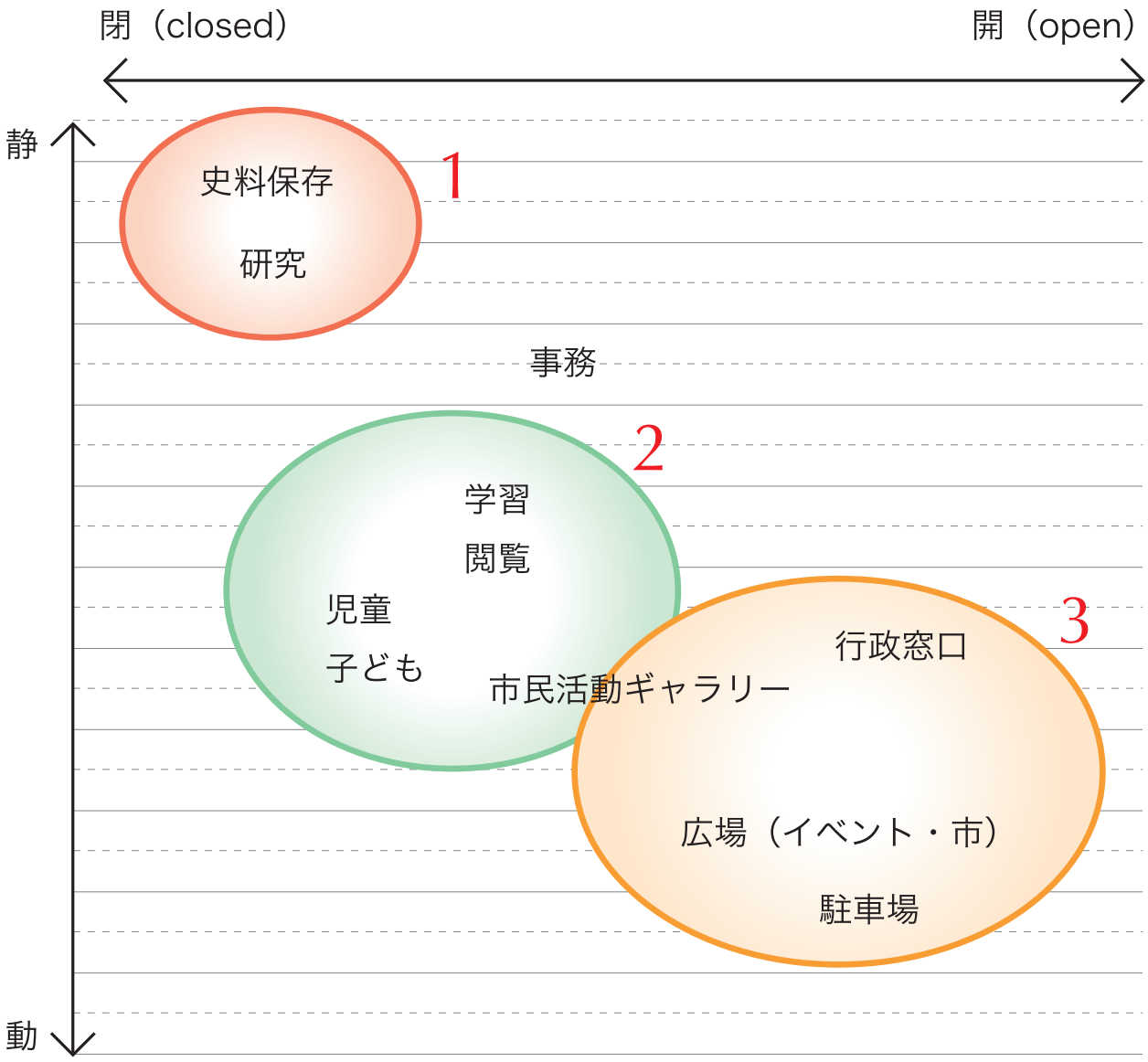

■ ひさしの下のギャラリー


■ 竹の風鈴・あんどん



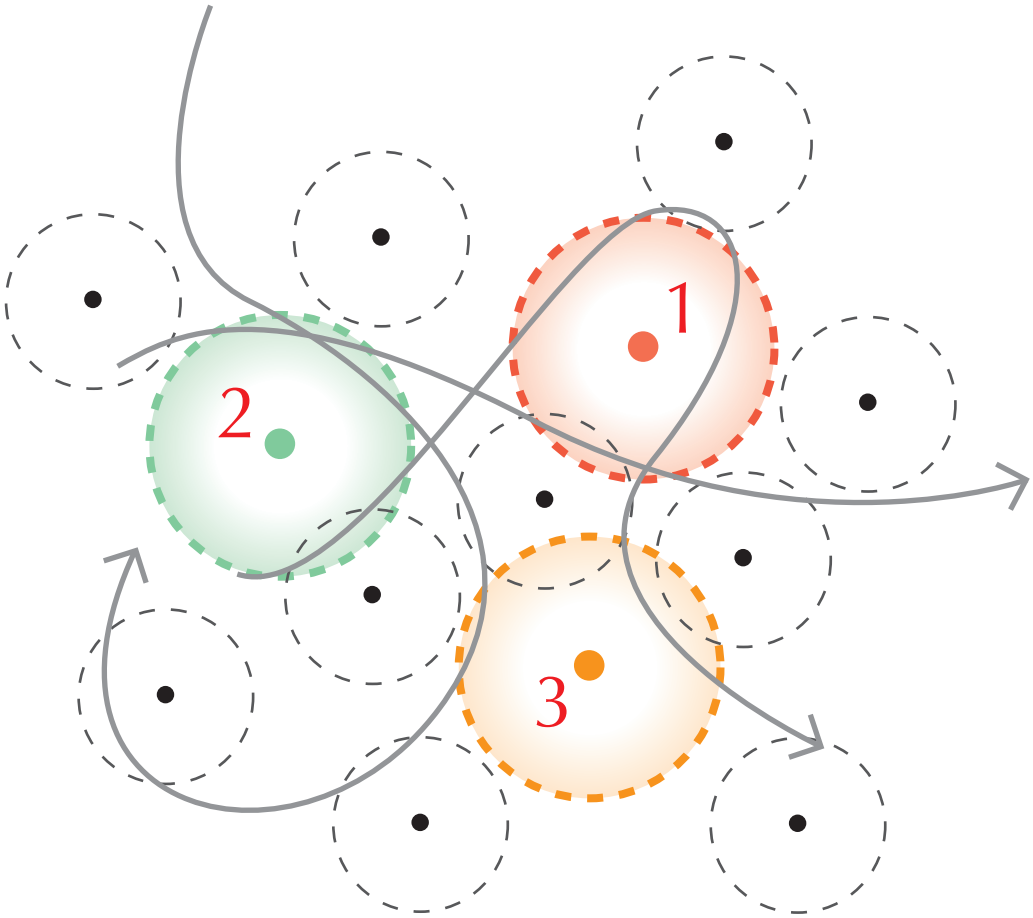
情感を生み出すたくさんのアイディア

すこし手を加えれば情感が生まれそうな場所。
竹田を歩くと、そういうたくさんの場所が見つかります。



３つの図書館の考え方

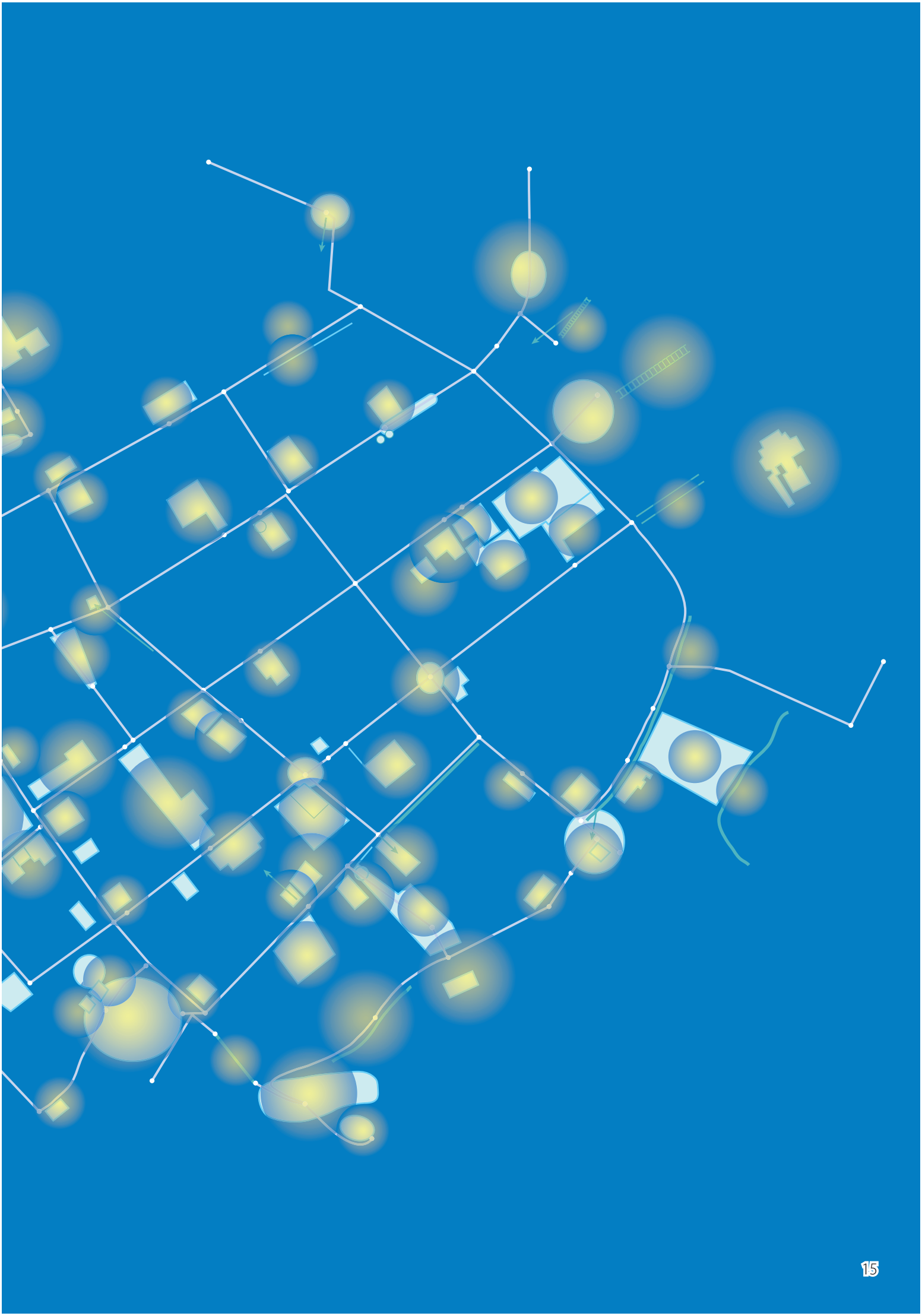
図書館に求められる機能には、多くのものがあります。たとえば、資料を保存したり、市民が学習したり、市民の活動を共有したり。
そのひとつひとつを見てゆくと、ひじょうに静かなものから、動きのあるものまで、閉じた空間を必要とするものから、開かれた空間がふさわしい



ものまで、多様です。
それらをひとつの大きな箱のなかにまとめてしまうのではなく、役割の異なる３つの小さめの図書館をつくってみてはどうでしょうか。
その３つの図書館は、まちのなかにしっくりととけこみ、竹田の風景をつくる情感にみちた場にならなければなりません。

情感まちづくり

わたしたちが考える情感まちづくり
情感は、みんなが共感できるものやこと
竹田にある情感のひとつひとつをきちんと育てていけば
きっと竹田にしかない、竹田のみなさんならばこそ共有できる風景になります
竹田は、みんながいつか見たような風景になりうると思うのです



竹田城下町ノート

明日への情感まちづくり

東京大学 景観研究室

平成２３年３月